

ロータリーの金看板

長い間、職業奉仕はロータリーの金看板だと言われてきました。

しかし、最近はその金がだんだん色あせてきたように思われます。職業奉仕の定義もぼやけてしまっていて、社会奉仕やボランティア活動の中に埋没してしまった感があります。

確か昔は職業奉仕のエネルギーで、ロータリーの歯車が回っていたはずなのですが、この何年かの間にその燃料が替えられて、最近ではロータリー財団の資金と、ボランティア活動のエネルギーで回転しているような気がします。

ここらあたりで、もう一度、職業奉仕とは何かを見つめなおす必要があると思います。

数ある奉仕クラブの中で、職業奉仕を標榜している唯一の団体は、ロータリークラブであるという話も、たびたび聞いたような気がします。しかし、これが間違いだというのが、私の考えです。

果たして職業奉仕は、ロータリーだけにしかない理念なのでしょうか。

ロータリーは二つモットー、すなわち *He profits most who serves best* と *Service above self* を奉仕理念とすることを決議 10-***で正式に採択しました。二つのモットーの内、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した *He profits most who serves best* は、職業奉仕の奉仕理念としてロータリーに定着したものです。すなわち *He profits most who serves best*こそが、ロータリーの職業奉仕理念だと言うことができます。

しかし、私の調査の結果、このフレーズはロータリーが開発したものではなく、1902年にシェルドン・スクールで経営学のモットーとして作られたものだということが分かりました。すなわち職業奉仕の考え方は、ロータリーが独自に開発したものではなく、シェルドンが自らの学校で教えていた経営学の理念を、そっくりそのまま、ロータリーが借用しているということになります。

従って、職業奉仕がロータリーの金看板ならば、シェルドンがどのような考えで、このモットーを提唱したのか、原点に立ち返って理解する必要があります。

このモットーに含まれている *profit* という単語を巡って、未だに、物質的なものか、精神的なものかを議論している人がいると聞きますが、シェルドンが残している数多くの文献からその真意は簡単に理解できるはずです。

シェルドンは現実に即する学問として経営学を説いているのですから、そこには精神的な感傷は入り込む余地はありません。He profits most who serves best がロータリーの奉仕理念と定められている限り、シェルドンの考え方を理解せずに、職業奉仕を語る資格はないことを強調しておきたいと思います。

シェルドンの職業奉仕理念は、純粋な経営学に基づくものであって、そこには宗教的要素や倫理的要素は一切は入っていません。従ってロータリーの職業奉仕は倫理高揚運動だという表現は間違いであり、シェルドン自身も、倫理高揚を目的にした活動ではないことを明言しています。しかし、シェルドンが提唱した方法で事業を営めば、結果として高い職業倫理に繋がることは否めません。

前置きはこのくらいにして、シェルドンの職業奉仕理念をまとめましょう。

建設的な事業を構築するために必要なことは、継続的な利益をもたらす常連を確保することです。そのためにはサービスや販売する商品に関する質、量、管理状態を常に正しい状態に保つ必要があります。その目的を達成するための環境整備、企業経営のノウハウ、公正な商取引の具体的な方法、マンパワーの開発などが詳しく解説されているのが、シェルドンの経営学に関する一連の出版物です。

なお、ロータリー以外の団体にも職業奉仕の考え方があることを、ライオンズクラブを例にしてご紹介しておきたいと思います。実はライオンズクラブにもロータリーの道德律に相当するライオンズ道德綱領があります。

ライオンズ道德綱領

- ◇ 職業に対する不断の努力が正しく賞賛されるように心がけ、自己の職業の尊さを確信すること
- ◇ 事業を成功させて、適正な報酬や利益は受けるべきであるが、自己の立場を不当に利用したり、人に疑われる行いをして自尊心を傷つけてまでも利益や成功を求めないこと
- ◇ 事業を遂行するにあたっては、他人の事業を妨害しないように心がけ、顧実や取引先に誠実であり、自己にも忠実であること
- ◇ 世人に対する自己の立場や行いに疑いが生じたときは、世人の立場に立って解決にあたること
- ◇ 真の友情は損得の上に築かれるものでなく、心と心の触れ合いによるものであることを自覚し、手段としてではなく目的として友情をもつこと
- ◇ 国家および地域社会に対する公民の義務を忘れず、かわらぬ忠誠を言動にあらわし、すすんで時間と労力と資力をささげること
- ◇ 不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しい人には私財を惜しまないこと

☆ 批評は謙虚に、賞賛は惜しみなく、建設を旨として破壊をさけること

職業奉仕の理念は、ロータリーだけが持っているという不遜な考え方は、ロータリアンの驕りです。いろいろな団体がいろいろな理念の下で活動しているわけで、それぞれの団体の考え方を尊重しながら、ロータリーの奉仕理念の原点に戻って考えることが大切です。